

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
	12 函館の国際交流活動の現状と課題

メンバー	[学 生] 今井 康太 / 及川 穂乃花 / 上山 旺奨 / バゲンダ アビガイル / 平河内 絵理 / 宮田 明澄 / 松館 花 / 吉井 さつき
	[担当教員] 河 錬洙

【背景】

函館の国際交流の現状と課題として、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による国内旅行者や外国人の動きが制限され、国際交流の場が減ってしまっていることを前提とした。これを踏まえ、はこだて国際民俗芸術祭のボランティアに参加するWMDFグループと、SNSを使った函館の情報発信を行うグループに分かれ、それぞれの観点からテーマに向き合うこととする。

【目的】

活動を通し、閉鎖的な環境下でも能動的な姿勢を崩さず、函館の国際交流に対する当事者性を身につける。

【概要】

- ① SNS班(今井/及川/平河内/宮田/松館): 複数のSNS媒体を用い、同世代の外国人を対象とした函館の魅力を発信する。コロナ禍後の来訪を見据え、彼らとの国際交流を生むきっかけをつくることを目的に、学生目線の函館の奥深さやおもしろさを意識しそのデータ分析を行った。
- ② WMDF班(上山/バゲンダ/吉井): 函館の元町公園で開催15回目を迎える「はこだて国際民俗芸術祭」(8月)のボランティアスタッフを活動の主軸とする。海外、国内を巻き込んだ文化芸術交流である本祭を「国際交流」と位置づけ、その現状と運営スタッフの抱える課題の解決を目指す。

【プロセスと成果】

- ① SNS班 (前期)全メンバーで予定を合わせ投稿
(後期)各メンバーの興味関心に沿った投稿
Instagram 20投稿(総いいね数128→606)
TikTok 9投稿(総閲覧数860→6073)
Twitter 12投稿(総閲覧数2869→4402)
・日本語の表記に加え、外国語の表記を行う。
・外国人にヒットするハッシュタグを中間発表以降に追加。

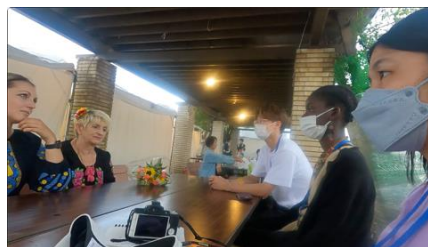


【①学生目線の投稿を意識】

- ② WMDF班

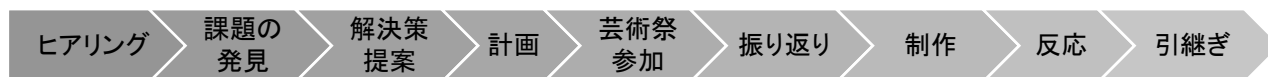


【②芸術祭運営スタッフと企画】



【②ウクライナの出演者の声を聞く】

前提	課題	活動	成果
コロナ禍で3年ぶりの開催	ボランティアスタッフが必要	運営との説明会を大学で開催	教育大生約10名がボランティアスタッフ新規登録!
国際交流の現状と課題のテーマ設定	WMDFの現状を知るには?	出演者24組に直接インタビュー	現状を記録:動画をWMDF公式Instagramで配信中
地域プロジェクトは毎年継続される活動である	前年度までの積み重ねが見えない	活動報告を4分程度の動画にまとめる	後輩への発信:オープンキャンパス特設サイトに掲載予定



【総括と反省・今後の課題】

次年度の活動提案▶▶「WMDF」の歴史・活動を「体験」し「記録」し「発信」し「反応」し「やりとり」する

	WMDF	改善	SNS
強み	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアスタッフという体験からテーマに向き合える ● 函館の地域団体と継続的に関わりつながりが確保されている 		<ul style="list-style-type: none"> ● TikTok, Instagram, Twitterなど発信源を個人単位で分担できるため、活動の自由度が高い ● データ分析によって地域への影響を客観的に把握できる
不足点	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな形で帰着できる経験を決めるのが難しい ● 8月のみの現場活動のため、計画的に経験を更新しづらい 		<ul style="list-style-type: none"> ● 扱う主題が曖昧で、個人の好みに偏りすぎるとテーマに対する取り組みの一貫性がなくなってしまう

▶浮かび上がった課題

両班の活動が共通して「発信」に留まっており、それは両班の活動を共有せず無駄が多かったことが指摘できる。WMDF班に関しては、ボランティアスタッフの体験の活用法を絞り切ることができず、発信する情報のコンセプトに一貫性を持つことができなかつた。SNS発信班は、「函館」という大きなテーマだったため、トピックや発信源によって扱い方が異なり、個人にかかる選択権が大き過ぎたという評価があつた。このことから、互いの班で進捗状況を交換しながら、強みを活かしかつあえる関係性を構築できなかつたことを課題とする。その原因の一つとして、プロジェクト開始時点での積み重ね（昨年度までの活動の記録や成果などの情報）が少なく、互いが協力体制まで結びつのに時間がかかつてしまったことが意見として挙がった。

▶そこから考えられる改善策

- ① 来年度の地域プロジェクトの特性に沿つた提案と、昨年度の活動を4月に共有する。
- ② 毎年8月に行われる「はこだて国際民俗芸術祭」のボランティアスタッフに、できる限りメンバー全員が参加し、共通した体験をもつことを強く勧める。
- ③ ①・②にメンバーが前向きに取り組むため、本地域プロジェクトに適切な学生が参加できるよう、次年度の地域プロジェクト選考段階での情報提供に力を入れる。

【地域からの評価】

地域プロジェクトの皆さんにはボランティアスタッフ募集説明会の準備に加え、当日のスタッフとして活躍してもらいました。特に今回は3日間という限られた時間内でアーティストへのインタビューという運営にとつても大切な仕事してもらい、運営側の想いを伝えた上で質問等も考えてもらいました。次々くるハプニングにも自分達で対応するなど頼もしい限りでした。とても行動的で責任感のあるチームだったと思います。

エネルギー溢れる地域プロジェクトメンバーに、この場をお借りして感謝申し上げます。
(はこだて国際民俗芸術祭運営スタッフ 柴田様)

【その他】

もっと私たちの活動を知りたい方へ▶▶

1. Instagram: 日々の記録
「hayonsu.chipro_15」



2. 「WMDF(はこだて国際民俗芸術祭)」でウェブ検索
…昨年度の芸術祭のようすや、ボランティアスタッフの募集情報を知ることができます。さらに、公式Instagramの投稿には、メンバーによる写真と文章の投稿も多数あります。

